

平成 28 年度「日本遺産」の認定について

1. 発表概要

文化庁は、平成 28 年 4 月 19 日（火）に開催した「日本遺産審査委員会」の審議の結果、全国の自治体から提案のあった 67 件の中から 19 件を平成 28 年度の「日本遺産」に認定しました。

兵庫県では、昨年の篠山市に続き、淡路市・洲本市・南あわじ市が申請した『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～」が認定されましたのでお知らせします。

なお、文化庁では、平成 27 年度から「日本遺産」の認定制度を整備し、2020 年の東京オリンピックまでに 100 件程度認定を予定しています。

2. 全国の状況

申請：67 件（昨年度 83 件）

認定：19 件（昨年度 18 件）

3. 兵庫県の申請状況

申請者	ストーリーのタイトル
◎淡路市、洲本市、 南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～
姫路市、福崎町、市川町、 神河町、◎朝来市、養父市	近代日本の鉱山システムを生み出した、生野鉱山と馬車の道
高砂市	神々の力が宿る石～古代から伝わる竜山石の文化の継承～

◎はとりまとめ市

○認定された日本遺産の概要

（申請者）淡路市・洲本市・南あわじ市

（タイトル）

「『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～」

（ストーリーの概要）

わが国最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」。この壮大な天地創造の神話の中で最初に誕生する“特別な島”が淡路島である。その背景には、新たな時代の幕開けを告げる金属器文化をもたらし、後に塩づくりや巧みな航海術で畿内の王権や都の暮らしを支えた“海人”と呼ばれる海の民の存在があった。畿内の前面に浮かぶ瀬戸内最大の島は、古代国家形成期の中枢を支えた“海人”の歴史を今に伝える島である

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	なかがわらどうたく 中川原銅鐸	国重文	金属器時代の始まりを告げるわが国内最古段階の菱環鈕(りょうかんちゅう)式銅鐸の一つ。古式の銅鐸ばかりが発見されている淡路島の銅鐸を象徴する。	南あわじ市
2	にっこうじどうたく 日光寺銅鐸	国重文	淡路島の銅鐸の特徴である舌を伴う希少な銅鐸。播磨灘を臨む慶野(けいの)村から出土した銅鐸の一つで、弥生時代の新たな祀りに海の民が携わったことを想像させる。	南あわじ市
3	どうたくしゅつどち なか みどう 銅鐸出土地 中の御堂	県史跡	日光寺銅鐸の出土地。日光寺に伝わる古文書「宝鐸御届写」には、「貞享3年(1686)の出水により、播磨灘を臨む海岸部で8個の銅鐸が出土した」と記されている。銅鐸祭祀に海の民が携わったことを想像させる遺跡。	南あわじ市
4	まつほどうたく 松帆銅鐸	未指定	平成27年(2015)4月、松帆地区から採取された土砂中より、7点発見された銅鐸。最古段階の菱環鈕(りょうかんちゅう)式1点のほか、6点全てが紀元前に製作された古式の銅鐸。2組4点が入れ子状態で発見されたほか、全てに舌(ぜつ)を伴うなど、他に例をみない埋納例である。播磨灘を臨む海岸地帯での埋納が予想されることから、弥生時代の新たな祀りに海の民が携わったことを想定させる銅鐸。	南あわじ市
5	けいのどうたく 慶野銅鐸	国重文	播磨灘を臨む海岸地帯で出土した外縁付鈕(がいえんつきちゅう)式銅鐸の一つ。弥生時代の銅鐸祭祀に海の民が携わったことを想定させる銅鐸。	洲本市
6	こつろどうけん 古津路銅剣	県有形	多数の銅鐸が発見されている播磨灘を臨む慶野松原近くの古津路遺跡から発見された14本の銅剣。多くの銅鐸とともに海岸部近くに埋納された青銅器。弥生時代の青銅器祭祀に海の民が携わったことを想像させる銅剣。	国立歴史民俗博物館 兵庫県立考古博物館 (南あわじ市)
7	ごっさかいといせき 五斗長垣内遺跡と 出土品	国史跡	弥生時代後期に急増する山間地集落の一つ。金属器時代の幕開けを告げる弥生時代にあつて、古代国家成立に重要な役割を果たした鉄器文化を、畿内中核部に先駆けて受容したことを知る遺跡。大規模な工房建物や多数の鉄器が出土。紀元1世紀から始まる鉄器生産が100年以上も継続した。工房建物から発見された朝鮮半島製の板状鉄斧などから、瀬戸内の海を介して海の民が伝えた鉄器文化の定着を見ることが出来る。	淡路市
		県有形	上記の鉄器生産を実証する出土遺物。生産された鉄器や鉄素材のほか石製工具類などは、瀬戸内の海を介して海の民が関わった先端技術と重要物資の生産や流通の様子を示す。	淡路市
8	しおつばにしいせき 塩壺西遺跡	未指定	弥生時代後期に明石海峡を見下ろす山の上に営まれた集落跡。大型の鉄鎌を持ち、狼煙(のろし)をあげた跡が発見されている。瀬戸内から畿内に向う海上航路の要衝である明石海峡を見張ったと考えられる遺跡。	淡路市 兵庫県立考古博物館
9	ふなきいせき 舟木遺跡	未指定	畿内に先駆けて鉄器文化を受容した島北部の弥生時代山間地集落の一つ。40haにも及ぶ広大な面積や大型建物跡の発見から、その中心的役割が想定される。出土している製塩土器やイイダコ壺などから、山間地集落と海の民との関係を知ることができる。	淡路市

10	ふたつしえびすのまえ 二ツ石 戎ノ前遺跡 及び出土品	未指定	弥生時代後期に急増する山間地集落の一つ。四国徳島県産の辰砂(しんしゃ)を原材料とした朱の精製を行った工房跡と使用した工具類が発見されている。鳴門海峡を渡って原材料を運び、時代の鍵となる重要物資の生産と流通に携わった海の民の活動を見ることができる。	洲本市 兵庫県立考古博物館
11	しもないぜんいせき 下内膳遺跡	未指定	淡路島中央部に位置する弥生時代の拠点集落。河内や紀伊の土器が出土。大阪湾を介して交流する海の民の存在が窺える。	洲本市 兵庫県立考古博物館
12	おきのしまこふんぐん 沖ノ島古墳群と ぼうじょうせきせいひん 棒状石製品	未指定	鳴門海峡を臨む小島全体を墓域とする古墳群。自然石を積み上げた小規模な石室を多数築き、漁具を中心とした副葬品を納めることから、海人(あま)の長が葬られたと考えられる。『日本書紀』に登場する「御原(みはら)の海人」の活躍を想像させる。棒状石製品は沖の島古墳群の特徴ある副葬品。細い石棒を磨き上げ、両端をとがらせた特徴的な形態を示す。沼島以外の淡路島内では産出しない緑泥片岩(りょくでいへんがん)を素材とすることから海を生業の場とした海人(あま)との関係が想定される。	南あわじ市
13	いしねやこふんぐん 石の寝屋古墳群	未指定	明石海峡を一望する高台に築かれた古墳群で、海峡を舞台に活躍した海人(あま)の長が眠ると考えられる。『日本書紀』の允恭紀に記述がある海人の「男狭磯(おさし)」の古墳とする伝承も残る。	淡路市
14	おがたにごうふん 岡の谷1号墳	市史跡	石室内に納められた家形石棺は竜山石(凝灰岩製)が使用されている。高台に築かれた古墳から臨む播磨灘を隔てた対岸の播磨地域と、海を介した繋がりが窺える。	洲本市
15	はただいせき ぼうじょうせきせいひん 畑田遺跡の棒状石製品	未指定	淡路島最古段階の製塩土器が出土する遺跡。海人(あま)との関係が深い棒状石製品が出土している。	淡路市
16	きふねじんじやいせき 貴船神社遺跡	未指定	海人(あま)が生業とした土器製塩を営んだ遺跡。淡路市野島に所在することから『日本書紀』に登場する「野嶋の海人(あま)」の活動拠点に比定される。熱効率の向上を図った石敷炉(いしじきろ)の使用によって大量生産を図った塩は、王権にも供されたものと考えられる。また、出土した新羅系の土器からは、朝鮮半島との関係を知ることができる。	淡路市
17	ひきのいせき 引野遺跡	未指定	海人(あま)が生業とした土器製塩を営んだ遺跡。脚台付きの製塩土器から熱効率の良い丸底式の製塩土器への進化を見ることができる。製塩土器の改良による塩の量産化によって王権を支えた塩づくりの始まりを見ることができる。	淡路市
18	きゆうじょうないせき 旧城内遺跡	未指定	古墳時代の製塩遺跡。塩づくりの場を埋葬の場として選定した古墳が発見されている。自然石を組み合わせた小型の埋葬施設には、土器製塩に携わった海人(あま)の長が葬られたものと考えられる。	洲本市
19	きどはらいせき 木戸原遺跡と しゅつどいぶつ 出土遺物	未指定	一般集落ではめったに見ることが無い鉄器素材となる鉄挺(てつてい)や韓式系土器(かんしきけいどき)が多数出土しており、半島との関係を見ることができる。倭の五王の時代に半島との往来を担った海人(あま)の航海術をみることができる遺跡及び遺物。	南あわじ市

20	こやだにこふんしゅつど コヤダニ古墳出土 さんかくぶちしんじゅうきょう 三角縁神 獣 鏡	未指定	古墳時代の首長の権威を象徴する淡路島で唯一の三角縁神獣鏡。海人(あま)が活躍した古墳時代に、王権とつながる淡路島の首長の存在を裏付ける貴重な遺物。	洲本市
21	いざなぎじんぐう 伊弉諾神宮	県有形	『記紀』の冒頭、「国生み神話」に登場する伊弉諾尊・伊弉冉尊の二柱を祀る淡路国一宮。『延喜式』神名帳では「名神大(みょうじんたい)」を、明治18年には官幣大社の社格を、また昭和29年には神宮號を宣下された格式高き神社。平成16年に社殿改修中に発見されたご神像9軀(県指定)はいずれも平安～鎌倉期のものであり、すべて伊弉冉尊を現した女神像であり、県下最古のご神像である。『古事記』『日本書紀』には国生みに始まるすべての神功を遂げられた伊弉諾尊が、最初にお生みになられた淡路島の多賀の地に「幽宮(かくりのみや)」を構えて余生を過ごされた、初めての「宮」と表記される日本最古の宮であり、境内は大神の神託の旧跡と伝えられている。	淡路市
22	やまとおおくにたまじんじゃ 大和天国魂神社	未指定	『日本書紀』に登場する御原(みはら)の海人(あま)を統率したと想定される大和氏ゆかりの神社。	南あわじ市
23	せんざんせんこうじ 先山千光寺	国重文	イザナギ・イザナミの二柱の神が国生みの際に第一に出た山で「先山」と名付けられたとされる。天の岩戸に姿を隠した天照大神を祀る岩戸神社もある国生み神話ゆかりの地。	洲本市
24	おい しみず 御井の清水	未指定	『古事記』の仁徳紀にある「朝夕に淡路島の寒泉(しみず)を酌んで大御水(おおみみい)として献上した」清水の伝承の地。大阪湾を渡って御陵水を運ぶ海人(あま)の姿を想像させるとともに王権との関わりの深さを伝える。	淡路市
25	あかしかいきょう 明石海峡と まつほ うら 松帆の浦	未指定	播磨灘と大阪湾を隔てる明石海峡は、潮流の激しさから瀬戸内の難所と呼ばれ、畿内へ向かう海上交通の要衝として、海人(あま)が活躍する場であった。その位置づけが『万葉集』に詠まれた塩づくりを営む海人(あま)の姿となった。今も変わらぬ潮流と多くの万葉歌人に詠まれた風景は海人(あま)が活躍した当時を偲ばせる。	淡路市
26	きたんかいきょう 紀淡海峡と ゆら なるがしま 由良・成ヶ島	未指定	瀬戸内の海上交通の要衝の一つ、紀淡海峡を掌握するための拠点。天然の良港としての由良は、古来より海上の交流・交易拠点としての役割を果たした。紀淡海峡における海人(あま)の活動拠点となったことが想像される。『記紀』にある天日槍(あめのひばこ)の「出石の刀子」ゆかりの生石(おいし)神社もある。	洲本市
27	なるとかいきょう 鳴門海峡と うずしお	未指定	淡路と四国との間の幅約1.3kmの海峡に生じる世界最大の渦潮とそれを生み出す激しい潮流の鳴門海峡は、海人(あま)の巧みな航海術を必要とした海であった。イザナギ・イザナミの二柱の神が天の沼矛で下界をかき回し、渦巻く様子は、鳴門海峡の渦潮と重なる。	南あわじ市
28	あわじにんぎょうじょうり 淡路人形浄瑠璃	国無形	島を代表する伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」は「国生み神話」ゆかりの「えびす舞」を起源とする。	南あわじ市

29	えしま 絵島	市名勝	「国生み神話」に登場する「おのころ島」伝承地の一つ。海人（あま）が活躍した明石海峡を背景とし、長年にわたる風波によって描き出された造形美が「おのころ島」に見立てられたものと考えられる。	淡路市
30	おのころじま 自凝島神社と くにうみしんわでんしょうち 国生み神話伝承地	未指定	「国生み神話」に登場する「おのころ島」ゆかりの自凝島（おのころじま）神社をはじめ、葦原国（あしはらくく）、天浮橋（あめのうきはし）などの神話伝承地。	南あわじ市
31	ぬしま 沼島	未指定	「国生み神話」に登場する「おのころ島」伝承地の一つ。島の太平洋側に浮かぶ小島で、島に残る古墳や製塩遺跡、立神岩の信仰などに、大海に漕ぐ出す海の民の拠点であったことが想像される。「沼島」の「沼」は「国生み神話」の「沼矛」に由来するといわれる。また上空から見た島の姿が勾玉の形をしていることや「立神岩」をはじめとする巨大な奇岩が島の周囲を取り囲んでいることが伝承を生んだものと考えられる。	南あわじ市

主な構成文化財の写真

松帆銅鐸



提供：奈良文化財研究所

五斗長垣内遺跡



伊弉諾神宮



先山千光寺



紀淡海峡と由良・成ヶ島



鳴門海峡とうずしお



平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定一覧

No	都道府県	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	宮城県	◎宮城県 (仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 松島町)	政宗が育んだ“伊達”な文化
2	山形県	◎山形県 (鶴岡市, 西川町, 庄内町)	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
3	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・ 下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・ 西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂 下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三 島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往事の会津の文化～
4	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—
5	千葉県	◎千葉県 (佐倉市, 成田市, 香取市, 銚子市)	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」—佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群—
6	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
7	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
8	新潟県	◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・ 津南町	「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
9	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
10	長野県	◎南木曾町・大桑村・上松町・木曾町・ 木祖村・王滝村・塩尻市	木曾路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～
11	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ—木とともに、今に引き継ぐ1300年—
12	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
13	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下 北山村・上北山村・川上村・東吉野村	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしと場所～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
14	和歌山県	◎和歌山県 (新宮市, 那智勝浦町, 太地町, 串本 町)	鯨とともに生きる
15	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
16	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～
17	広島県・神奈川県・ 長崎県・京都府	◎呉市(広島県)・横須賀市(神奈川 県)・佐世保市(長崎県)・舞鶴市(京都 府)	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～
18	愛媛県・広島県	◎今治市(愛媛県)・尾道市(広島県)	“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島—よみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU”の記憶—
19	佐賀県・長崎県	◎佐賀県 (唐津市, 伊万里市, 武雄市, 嬉野市, 有田町) 長崎県 (佐世保市, 平戸市, 波佐見町)	日本磁器のふるさと 肥前～百花繚乱のやきもの散歩～